

Relationship Between Aging, Menopause, and Eicosapentaenoic Acid/Arachidonic Acid Ratio in Women With Dyslipidemia in Tokyo

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2023-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 真理子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033461

主論文の要旨

Relationship Between Aging, Menopause, and Eicosapentaenoic Acid/Arachidonic Acid Ratio in Women With Dyslipidemia in Tokyo (東京の脂質異常症女性における年齢、閉経とエイコサペンタエン酸 / アラキドン酸比との関係)

東京女子医科大学 総合診療・総合内科学分野
(指導：竹村洋典 教授)

佐藤 真理子

Tokyo Women's Medical University Journal 2022; Vol.6 : p108-116 (2022年12月20日発行)に掲載

【要旨】

血清エイコサペンタエン酸(EPA)/アラキドン酸(AA)比 (sEAR) は食事の影響を受け冠動脈疾患リスクと負の相関がある。近年生活様式の変化に伴い食生活は変化した。本研究は東京の女性脂質異常症患者の年齢と sEAR との関係、年齢階層別血清脂肪酸 24 分画 (sFA24F) 値、更年期の sEAR への影響を調査した。対象は 2012 年 1 月～2015 年 1 月に当院を受診した脂質異常症女性患者 89 名 (36 歳～76 歳 [平均 56.6 歳])。年齢 3 分位に分類し、<52 歳 (n=28)、52～58 歳 (n=30)、>58 歳 (n=31)。3 群間で一元配置分散分析 (ANOVA) とテューキー検定を使用して、sEAR と脂肪酸 24 分画重量比を比較。さらに月経データがある 82 人を閉経後患者群 (n=66)、非閉経後患者群 (n=16) に分類して sEAR を比較。sEAR、EPA、DHA は高齢層で高値。閉経後患者と非閉経後患者とで sEAR は有意差なし。東京の女性では sEAR は高齢層で高く閉経の影響は認めなかった。この結果は n-3 系脂肪酸を含む海産物の摂取量の違いによって引き起こされた可能性が示唆された。